

## 2025年度 学校評価アンケート（所感）小学校

本校では、教育活動の質向上とより良い学校づくりをめざし、毎年「学校評価アンケート」を実施しております。この度、令和7年度の調査結果がまとまりましたので、ご報告申し上げます。

保護者の皆様にご回答いただきましたアンケートの回収率は72.9%でした。多大なるご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。

この報告書では、昨年度（令和6年度）の結果との比較、および「保護者・教員」の二者視点による多角的な分析を通じ、本校の現状と次年度への課題を明らかにいたします。

昨年度の結果と比較すると、保護者の肯定的な回答率はほぼ全ての項目において向上しました。これは、学校全体で推進してきた改善策が、保護者の実感として結実していることを示唆しています。

評価項目「授業以外での丁寧な関わり（Q5）」は+9.7ポイント、「学習の質問・相談への対応（Q4）」は+9.1ポイントと、大幅に伸長しました。放課後や休み時間における児童とのコミュニケーションが質・量ともに向上したことで、保護者の「子供が大切にされている」という安心感につながっています。教職員が多忙な中でも、児童一人ひとりと対話する時間を意識的に確保してきた成果と言えます。

「学習活動の系統性と成長の可視化（Q20）」は+5.9ポイント、「分かりやすい授業への努め（Q2）」は+4.1ポイント上昇しました。単に授業を遂行するだけでなく、その学びの連続性や子供の成長を、面談や学級通信を通じて具体的に発信してきたことが、保護者の納得感・満足度を高める要因となりました。

「運動会（Q11）」や「児童会活動（Q12）」への評価も向上しており、児童主体の運営への転換が、学校の活気としてポジティブに受け止められています。

一方、保護者と教員の回答を対照させると、教員側が自らを厳しく律している傾向が顕著に見られます。

「キリスト教と建学の精神（Q1）」について、保護者の94.2%が肯定している一方、教員の肯定評価は54.5%に留まります。保護者は日々の教育環境に精神性を感じていますが、教員側は「理念のさらなる具現化」を目指して内省していることが分かります。「キャリア教育（Q8）」についても同様の傾向にあり、教員の高い理想が自己評価の厳しさに現れています。

「宿題の適切さ（Q21）」において、保護者の満足度（88.1%）に対し、教員の自己評価（54.5%）には約34ポイントの乖離があります。教員側には、個々の学力に応じたより最適な家庭学習のあり方を模索し続けたいという、強い改善意欲が伺えます。

「校内環境の整備（Q15）」では、保護者が97.3%と極めて高く評価している一方、教員は63.6%に留まります。施設の維持管理上の課題に敏感であることは、教職員の「安全・美化に対する高い責任感」の証左と言えます。

「この学校に入学してよかった（Q22）」に対し、95%を超える保護者が肯定的に回答されました。この高い信頼を基盤とし、教員間の課題意識を共有しながら、さらなる教育活動の充実を目指してまいります。

これらの結果を真摯に受け止めた上で、次年度は以下の4点を重点課題として取り組んでまいります。

(1) 教員の自己評価が最も慎重であった「建学の精神 (Q1)」については、本校教育の根幹に関わる最重要事項として再定義を図ります。保護者からは高い評価を得ている一方で、教員側には「理念と実践の距離」に対する内省が見られます。これを組織的な伸び代と捉え、日々の生活指導や行事、祈りの時間において、精神がどのように体現されているかを具体的に言語化し、校内研修等を通じて教職員間で共有します。教員が自らの教育実践に確固たる自信を持つことで、本校ならではの教育の質をさらに深めてまいります。

(2) 「宿題の内容と量 (Q21)」に関しては、保護者の高い満足度に甘んじることなく、教員側の「より良くしたい」という改善意欲を具体的施策へと繋げます。学校での学びと家庭学習が有機的に連動し、児童が主体的・意欲的に取り組める学習環境の構築を目指します。

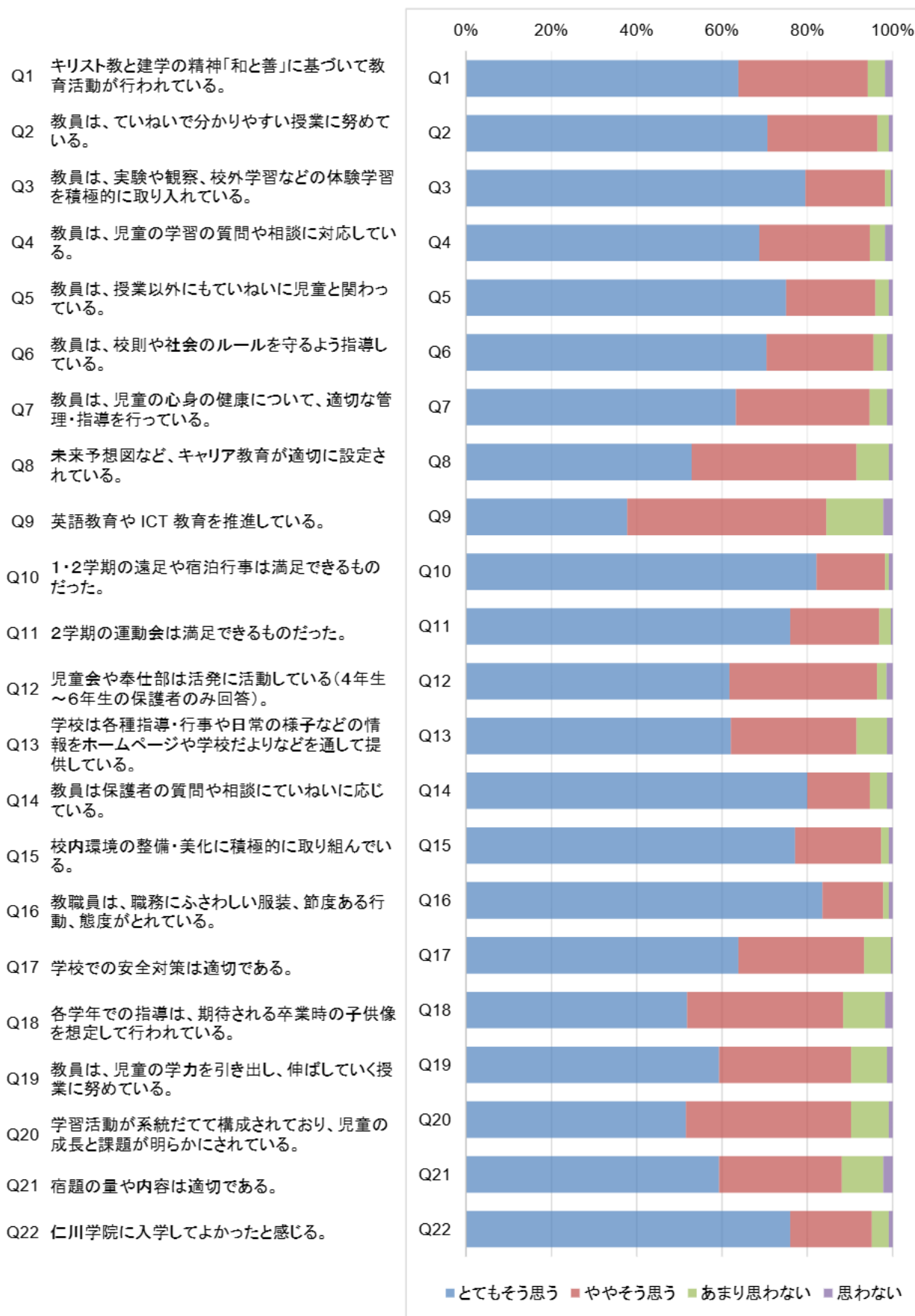
(3) 施設・安全管理 (Q15・Q17) については、保護者の評価がわずかに微減傾向にあり、かつ教員の危機意識が非常に高い項目です。このギャップを埋めるため、教職員が日々注視している安全上の懸念事項をリスト化し、それに対する修繕計画や点検結果を定期的かつ積極的に保護者へ公開してまいります。「学校が常に高い意識で環境維持に努めている」ことを可視化し、保護者の安心感をより盤石なものにします。

(4) 本年度、満足度が大きく伸長した「成長の可視化 (Q20)」については、本校の新たな強みとして定着を図ります。児童一人ひとりの小さな変化や挑戦を捉え、保護者に伝えるためのタイミング（個人面談、ICTツールの活用、学級通信等）や情報の質を、全学年・全学級で平準化させます。どの担任であっても「我が子の成長を多角的に見守ってくれている」と保護者が実感できる体制を維持・強化し、家庭と学校の信頼の絆をさらに深めてまいります。

今年度のアンケート結果に現れた保護者の皆様からの高い期待と温かい信頼を、教職員一同、大きな励みとして受け止めております。今回明らかになった課題に対し、真摯に、かつ組織的に取り組むことで、次年度も引き続き「この学校に入学してよかった」と心から感じていただける教育活動を追求してまいります。

以上

## 学校評価アンケート 小学校(保護者)



## 学校評価アンケート 小学校(教員)

